

牧師室から (2020. 7. 12)

前任地では庭がなかったし、元々ガーデニングもあまりしていなかったのだが、海老名教会の狭い庭に草木を置いたら皆さんが喜んでくださるのが嬉しくて、調子に乗ってどんどん増え続けている。またご自宅のものを草分けして戴いたのもあり感謝である。ハーブなども料理するのに便利である。コリアンダー（香菜、パクチー）の種を蒔いたら元気に成長して、今白い花をつけている。何年か前にカンボジアに旅行した時に、向こうの方の国々にとってはソウルフードであることを知った。気のせいかな空港の中までパクチーの香りがしたが、ビールには確かにパクチーの香りがあった。少しなら良いが連日だと鼻についてしまう。

ところが聖書にも大事なところで登場するハーブである。「イスラエルの家では、それをマナと名付けた。それは、コエンドロの種に似て白く、蜜の入ったウェファースのような味がした。」(出エジプト記 16:13) と書かれているが、ここでのコエンドロ(コリアンダー)はパクチーのことである。

教会の庭を小さな聖書植物園にしたいという幻を見る。が、実際に庭にあるものを見ると、実のなるものやハーブなどの食べられるものが多いことに気づいた。私どもはやはりリアリストであるのだと思った。(二人共、自身でロマンチストだと思っていたかもしれないのだが・・・)

(鈴木淳一牧師)